

# 令和2年度第1回鳥取県パートナー県政推進会議の開催結果について

令和2年7月21日  
新時代・SDGs推進課

鳥取県パートナー県政推進会議の令和2年度第1回目の会議を7月19日（日）に開催しましたので、その内容を報告します。

- 1 開催日 令和2年7月19日（日）午後3時から5時まで
- 2 場所 災害対策本部室、中部総合事務所災害対策室、西部総合事務所災害対策室
- 3 出席者 委員14名（※名簿裏面）、知事、令和新時代創造本部長ほか
- 4 テーマ 「2030年の鳥取県の姿について」（鳥取県の将来ビジョン）
- 5 主な意見等

- ・鳥取県はとても水が豊か。田舎に住んでいると感じないが、これだけ安全な水をタダで使って、星空米を栽培している。そのような鳥取県の強みをもう一度見極めて、世界のマーケットにブランディングしていくべき。（徳本委員）
- ・ICTやドローン等を利用したスマート農業は、ある程度ほ場が集積され、基盤整備されていないと機能しない。インフラ整備とセットの施策が必要。（徳本委員）
- ・コロナ禍の中、インターネット通販事業やテレワークを推進していく上で、県内には、光ファイバーケーブルなど通信インフラが整っていない地域が存在する。全県で、目指すべき水準を定めた方がよい。（高林委員）
- ・少子高齢化、人口減少が進行してく中で、都市のコンパクト化とネットワークの強化は避けて通れない。また本県は、人口最少県であり中山間地域が多いことから、高齢化社会での移動手段として、自動運転技術の推進により力を注ぐべき。（奥村委員）
- ・コロナ禍の中、移住の推進を考えたときに、中山間地域では、特に県外の人に対する拒否反応が強い。移住を希望される方は、例えば、鳥取市や米子市のような市街地に一定期間住み、その間に実際に住みたい場所とコミュニケーションを図るような2段階的な移住の方が、受け入れ側も安心できるのではないかと。（佐々木委員）
- ・県内に自分が働きたい企業や業種がないとの理由で、友人の約半分は県外で就職しているが、本当にそうなのか疑問に感じている。学生に希望職種等を聞いて、紹介していただけると嬉しい。また希望職種がなければ企業誘致してもらいたい。（坂口委員）
- ・若者の中には、リアルじゃなくてもSNS上での繋がりだけでよいという人たちもいて、なかなか地元に住んでいる若者の顔が見えてこない。学校を卒業してからPTA活動に関わるまでの間の若者世代が、地域と関わっていくことが、地域を元気にすることに繋がるのではないかと。（矢芝委員）
- ・SDGsは、国や自治体が目指すもので、国民、県民レベルに浸透していないと感じる。身近にSDGsを感じてもらえるようキャンペーン等を行う際は、ハードルを低くするなど工夫して欲しい。（原田委員）
- ・高齢化社会を迎えるにあたって、70歳以上も働かなければならない時代になる。これまで培ってきた技術を生かせるような雇用の場の提供が必要。また、70代後半では、インターネットを苦手とする高齢者が多い。県をあげて、IT教育を行い、ホームページ等からも情報を取得できるよう推進すべき。（川口委員）
- ・県は、様々な施策を行っているがSNSでのアピールが少なく、携帯電話でも見づらいため、県民はほとんど見ていないのではないかと。高校生など若い世代へのアピール方法を考えるべき。（志摩委員）

## 6 今後の予定

会議でいただいた意見や提案について、秋頃改訂予定の「鳥取県の将来ビジョン」や、県施策への反映を検討する。

